

ゆたか倶楽部がおすすめする

日本列島の美しい島々

Vol.01

～瀬戸内海①～

「多島美」という言葉が表すとおり、風光明媚な瀬戸内海には多くの美しい島々が点在します。島ひとつひとつを見ても、それぞれ異なった自然、文化を持ち訪れる旅人たちを楽しませてくれます。その魅力は日本国内に留まらず、世界各国から高い評価を受けています。それは古から、ここが交通の要衝となり、さまざまな人々が行き交い、先人たちがその土地独特の文化・歴史を育んできたからでしょう。

ここでは日本列島の幾つかの島をご紹介しますし、お客様の今後のご旅行の参考にしていただければ幸いです。

ぜひこの機会に瀬戸内海の旅に出掛け、文化と歴史を感じてみてはいかがでしょうか？

瀬戸大橋

ほんじま
①本島／笠島地区(香川県塩飽諸島)
しわく



本島／笠島地区

豊臣秀吉、徳川家康ら時の天下人に認められ、その名を全国に轟かせた塩飽水軍。その本拠地として栄華を極めた島がこの本島です。その中の笠島地区は、塩飽水軍の拠点として古くから開かれた港町。江戸から大正の名残を残す町並みには、「塩飽大工」と呼ばれた名工たちによって手がけられた、漆喰塗りの白壁の家が現在も美しい状態で保存されています。

いんのしま

③ 因島 (広島県)



因島／白滝山五百羅漢

広島県尾道市、しまなみ海道が通る因島。1569年、因島村上水軍当主村上吉充が観音堂を建立したと伝えられる標高227メートルの白滝山。1827年には柏原伝六とその弟子たちにより、五百羅漢の石仏が造られました。いま、仁王門から山頂まで大小約700体の石像仏群がところ狭しと並んでいます。山頂の展望台からは360度、瀬戸内の大パノラマを楽しめます。

② 北木島 (岡山県笠岡諸島)



北木島／石切りの溪谷展望台

笠岡港から約26km笠岡諸島で最も大きな島です。古くから「北木御影石」で知られる「採石の島」として有名です。江戸初期の大阪城修築の際には大量の石垣石を供給しました。明治以降、石材の採掘が本格化され、東京の日本銀行本店、日本橋、靖国神社大鳥居をはじめ多くの建築物に北木石が使用されています。



ガンツウ企画いずれも大好評!

2022年5月10日～5月13日 4日間
2022年6月18日～6月21日 4日間
2022年7月25日～7月28日 4日間
2022年9月27日～9月30日 4日間
お問合せください。パンフレットをお届けします。

おしま

④ 小島 (愛媛県)



小島／芸予要塞跡

愛媛県今治市沖の来島海峡に浮かぶ小さな島です。この島には、明治時代中期の日露戦争当時、敵国ロシアからの侵略を防衛するために築かれた要塞があります。明治32年から2年間の突貫工事で巨費を投じ砲台や赤煉瓦の兵舎、火薬庫などが造られました。このような施設がほぼ当時のままの姿で残されており、貴重な近代化遺産となっています。